

機器導入前の事業所内の状況

担当職員1名で計画相談支援業務を担う中、地理的・物理的・情報管理上の複合的な課題が業務効率と支援の質に影響を与えていた。

⚠ 業務の非効率

- 全ての記録・計画作成が紙媒体で、外出先での入力・確認が不可能
- 訪問先から事務所に戻り再入力する二度手間が常態化
- 担当者会議（熊本市内）への移動に片道2時間超、2時間の会議に5時間の移動時間を要する

👤 職員の負担増加

- 1名体制で相談支援専門員が全業務を担当
- 業務用携帯電話がなく、個人の携帯番号を利用者に伝えざるを得ない状況
- 移動・記録・会議対応が重なり、残業が慢性化

👥 支援の質・量の確保

- 広大な天草地域をカバーするため、1回の訪問に往復2時間以上を要する
- 訪問回数が増えるほど移動時間のロスが拡大し、支援に充てる時間が圧迫される
- 寡黙症の利用者からLINE等での連絡を求める声が増加しているが対応できていない

👥 人材確保・定着

- 個人携帯の業務利用によるプライバシー侵害リスクが職員の不安要因に
- 紙ベースの煩雑な記録業務が職員の負担感を高め、定着の妨げになっていた
- ICT未整備による業務の属人化が後任育成の障壁となっていた

導入内容と活用方法

タブレット・スマートフォンの導入により、訪問時のデジタル記録、クラウド管理、オンライン会議、業務用スマートフォンによる連絡手段の整備を実現した。

💡 導入のきっかけ

- 天草地域の地理的課題（広域・交通不便）による移動時間の増大
- 紙媒体での記録管理による外出先での業務停滞と二度手間
- 業務用携帯電話の不在によるプライバシー問題と利用者対応の限界

🌟 令和6年度 介護テクノロジー導入支援事業（ICT導入支援）補助金を活用

📱 導入した機器

-  **Surface Pro 13型**
訪問先での記録入力・計画書作成に活用
-  **フレックスキーボード（スリムペン付き）**
手書き入力・文書作成の効率化
-  **Surface マウス**
外出先での精密操作をサポート
-  **Google Pixel（業務用スマートフォン）**
利用者との連絡・LINE対応に専用端末を使用

☰ 活用方法・場面

- **訪問時のデジタル記録**
タブレットでアセスメント・計画書を現場で直接入力・更新
- **クラウド管理**
利用者情報・計画書を一元管理し、どこからでもアクセス可能に
- **オンライン会議**
熊本市内の会議へリモート参加し、移動時間を大幅削減
- **業務用スマホ活用**
LINEでの相談・日程調整に対応し、プライバシーも保護

導入効果と今後の展望

📈 業務の効率化・生産性向上

- ✓ 訪問先でのリアルタイム入力により、事務所への往復が不要となり移動時間を大幅削減
- ✓ アセスメント・計画書の作成時間が短縮され、1件あたりの対応時間が改善
- ✓ オンライン会議の活用により、会議1回あたり最大4時間の移動時間を節約

😊 職員の負担軽減

- ✓ 業務用スマートフォン導入により個人携帯の業務利用が解消、プライバシー不安が払拭
- ✓ 外出先での記録入力が可能となり、帰所後の二重入力作業がなくなった
- ✓ 移動・記録・会議対応の効率化により、残業時間の削減が見込まれる

★ 支援の質・量の向上

- ✓ 移動時間の削減により、訪問件数の増加と支援の充実が可能に
- ✓ クラウドによる情報一元管理で、最新の利用者情報を常に参照しながら質の高い支援を提供
- ✓ LINEを活用した連絡手段の整備により、寡黙症の利用者への対応力が向上

👤 人材確保・定着

- ✓ 業務のデジタル化により記録業務の負担感が軽減、職員が支援本来の業務に集中できる環境を整備
- ✓ 個人携帯の業務利用解消により、職員が安心して働ける職場環境を実現
- ✓ 業務手順のデジタル化が標準化・マニュアル化を促進し、後任育成が容易に

🗣️ 職員の声と今後の展望

「外出先でその場で記録が完結できるようになり、帰所後の作業が大幅に減りました。移動中の時間も有効活用できるようになりました。」

引き続きICTを活用した業務改善を推進し、天草地域における相談支援の質と量の向上を目指す。また、デジタル化で生まれた時間を利用者との関わりに充て、より丁寧な支援の実現を目指していく。